

株式会社ビー・エム・エル

2025年度決算説明会

2026年5月13日
代表取締役社長
近藤 健介

目次

- 2025年度決算業績概要
- 第9次中期経営計画の進捗
- ファルコホールディングスとの資本業務提携の進捗
- 2026年度通期の業績見通し
- キャッシュアロケーション・株主還元

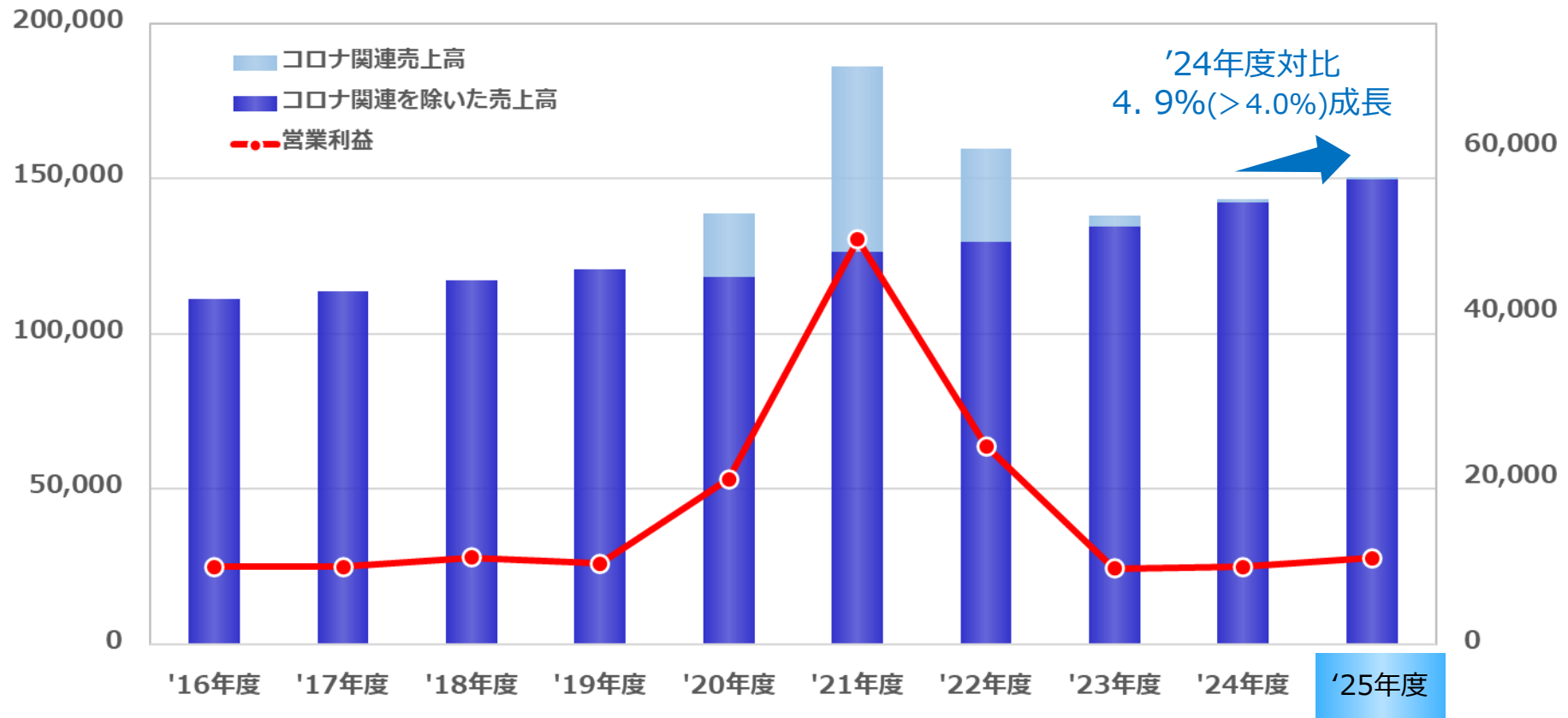
2025年度決算業績概要



新規獲得に加え収益性向上への取り組みで増収・増益

売上高
(百万円)

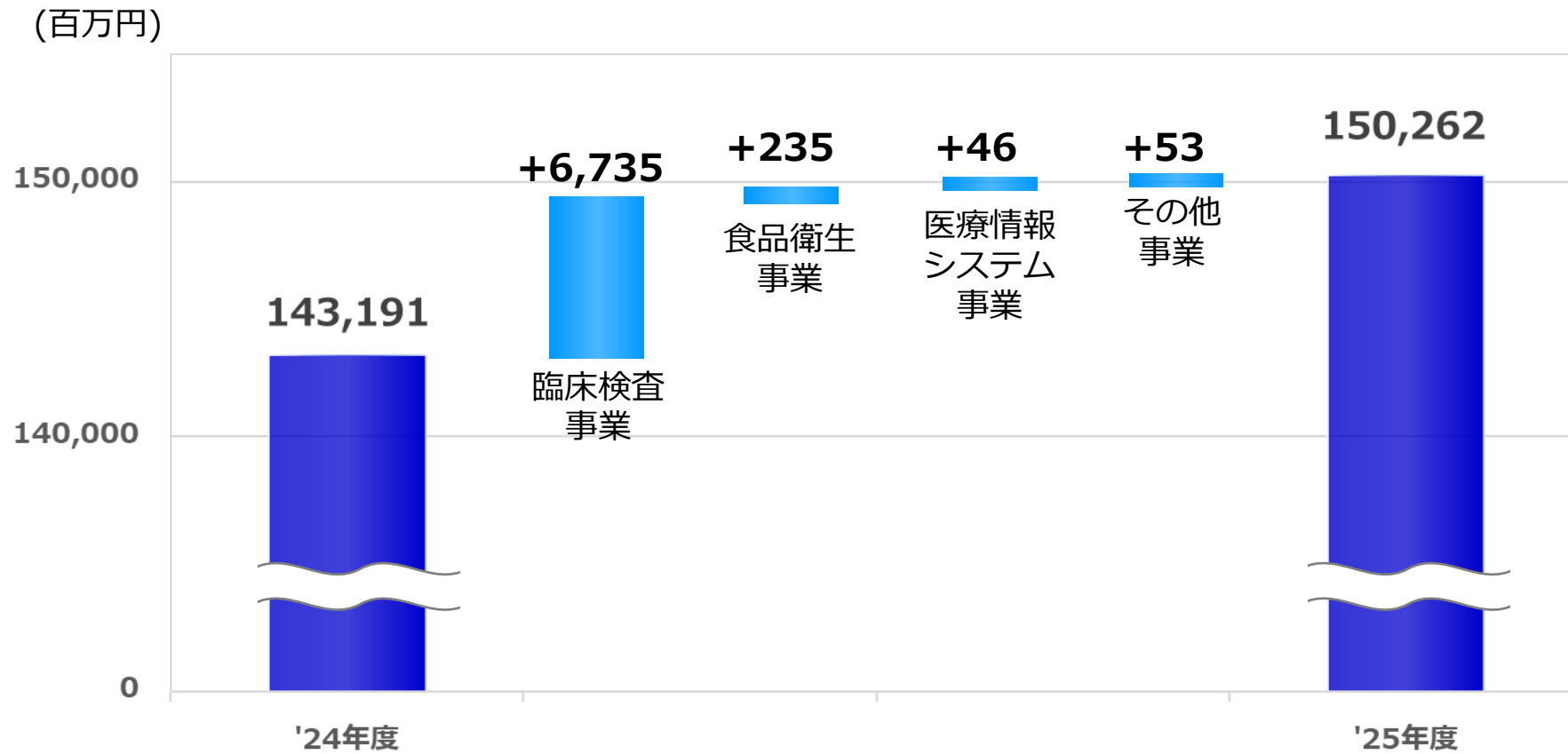
営業利益
(百万円)



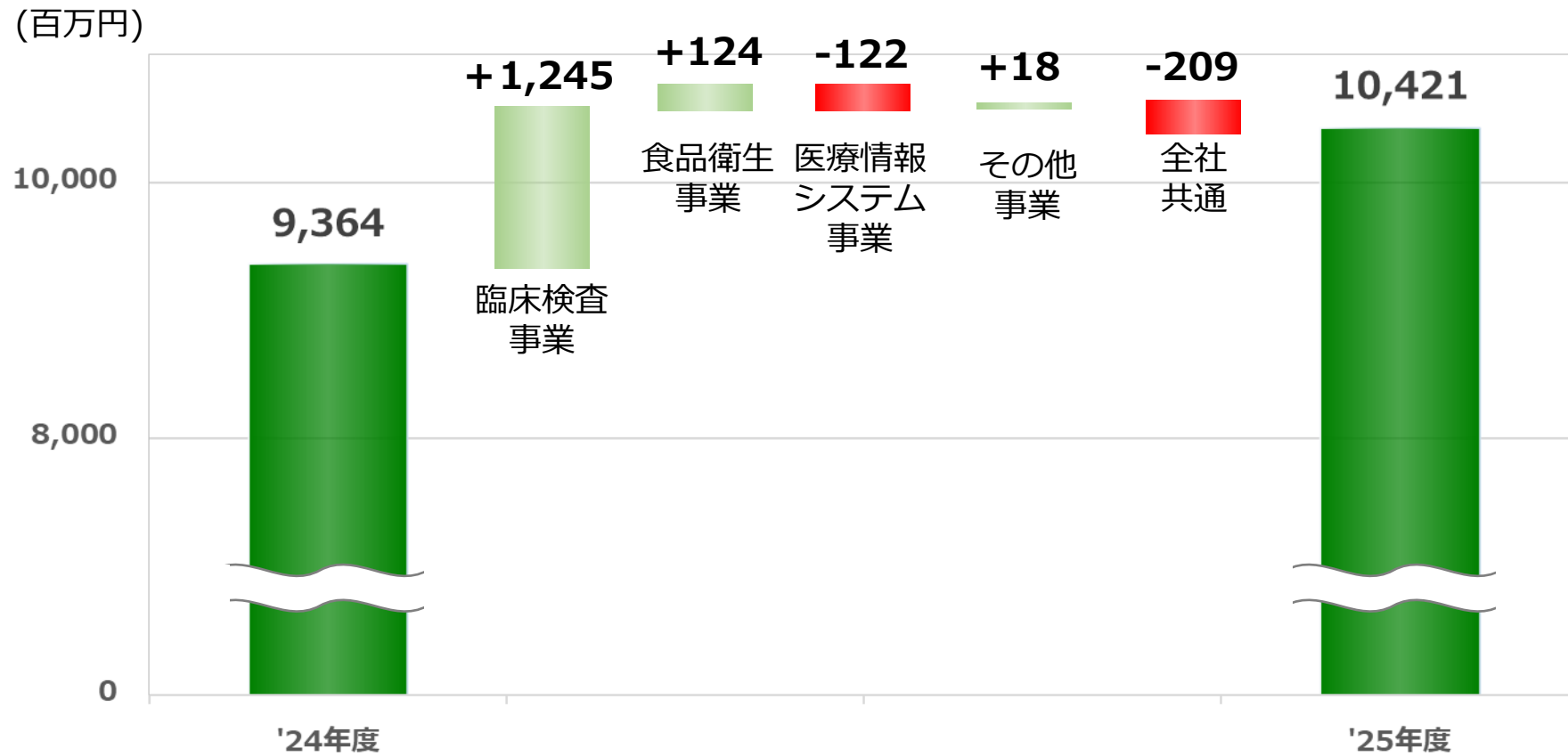
(百万円)

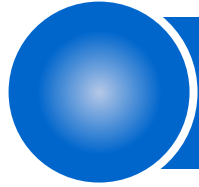
	'24年度	'25年度	増減額	増減率
売上高	143,191	150,262	7,071	4.9%
検査事業	136,219	143,191	6,971	5.1%
臨床検査	130,925	137,661	6,735	5.1%
食品衛生	5,294	5,530	235	4.5%
医療情報システム	5,478	5,524	46	0.8%
その他事業	1,493	1,546	53	3.6%
営業利益	9,364	10,421	1,057	11.3%
経常利益	9,970	11,014	1,043	10.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,263	7,748	1,484	23.7%
EBITDA	16,892	19,334	2,441	14.5%

売上高 前期比 70億71百万円 (4.9%) 増収



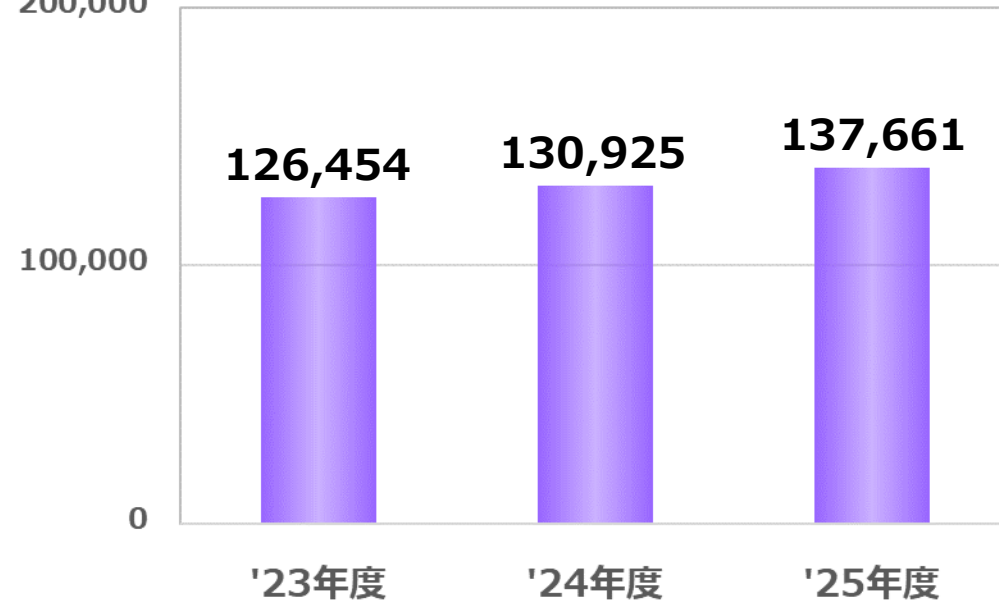
営業利益 前期比 10億57百万円 (11.3%) 増益





売上高 1,376億61百万円
 前期比 67億35百万円 (5.1%) 増収

(百万円)
 200,000



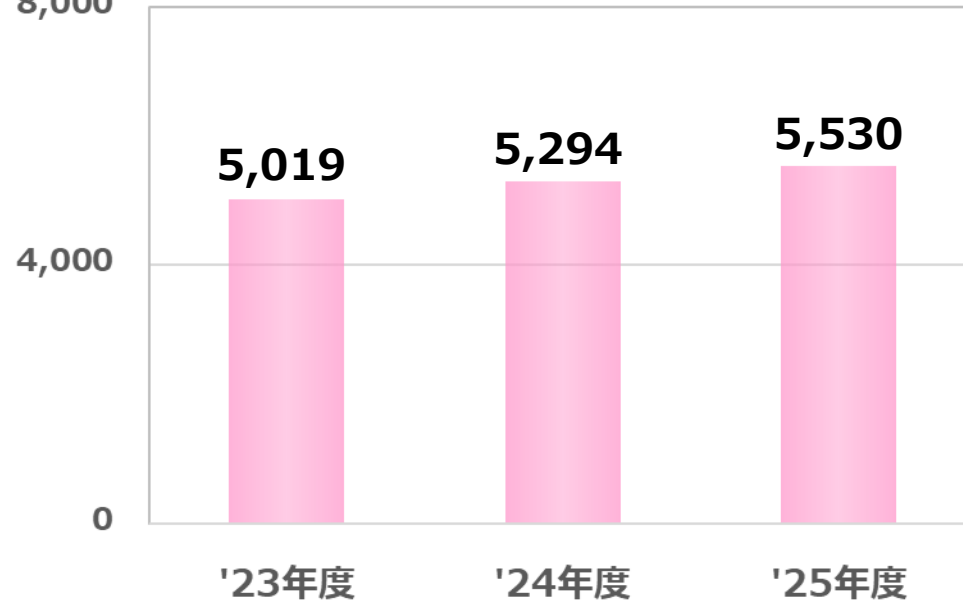
主なトピック

- ✓ 新規獲得
 - ・ 新規顧客を順調に獲得
- ✓ 販売価格の適正化を推進
 - ・ 不採算項目および不採算取引先の見直し
- ✓ 価格変動
 - ・ +1.0%の上昇



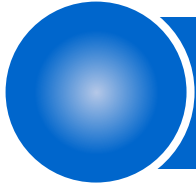
売上高 55億30百万円
 前期比 2億35百万円 (4.5%) 増収

(百万円)
8,000



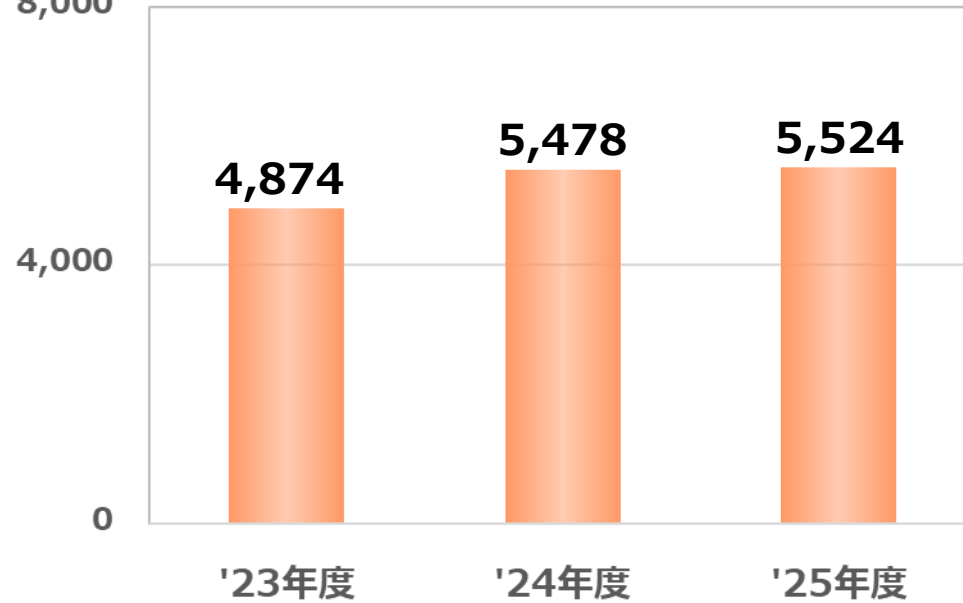
主なトピック

- ✓ 取引条件適正化の推進
 - ・ 大口顧客を中心に店舗点検単価の適正化を実施
- ✓ 食品コンサルティング
 - ・ 総合取引提案を推進したことにより店舗点検や認証業務の受注が増加



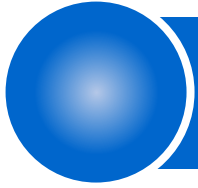
売上高 55億24百万円
 前期比 46百万円 (0.8%) 増収

(百万円)
8,000



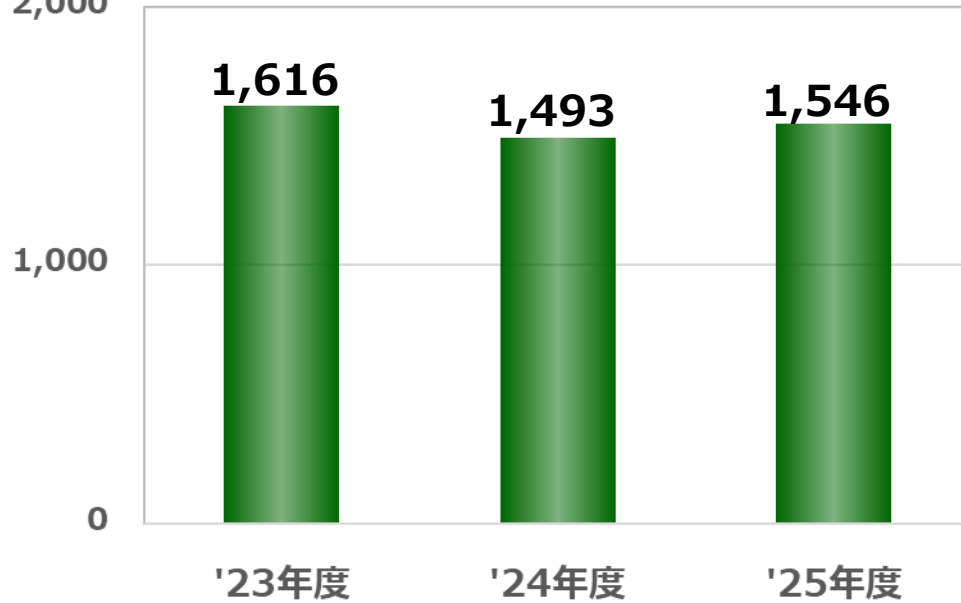
主なトピック

- ✓ リプレイス
 - ・ リプレイス需要に確実に対応



売上高 15億46百万円
 前期比 53百万円 (3.6%) 増収

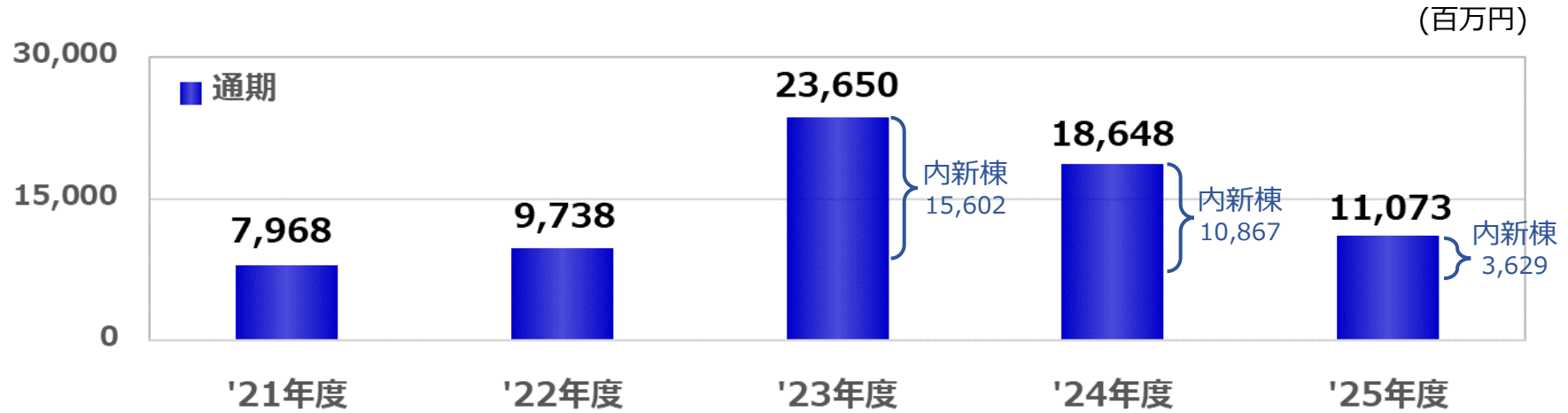
(百万円)
 2,000



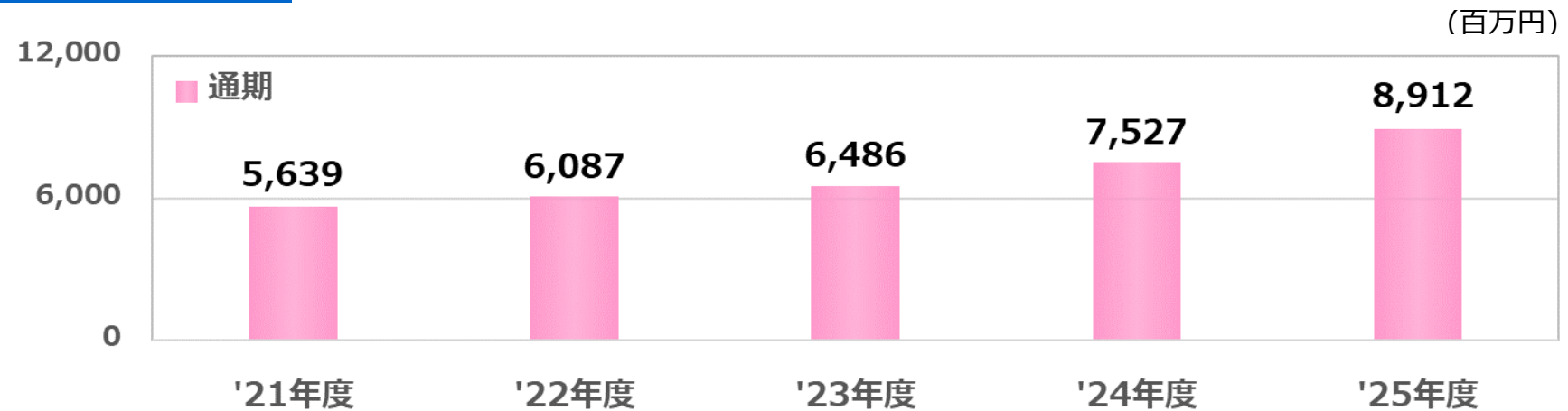
主なトピック

- ✓ 調剤薬局事業
 - ・ 高額薬剤処方が増加
- ✓ 治験実施医療機関支援(SMO)業務
 - ・ ペインおよび泌尿器領域の新規症例獲得数が増加

設備投資額



減価償却費



(百万円)

	'24年度	'25年度	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,809	20,715	4,906
投資活動によるキャッシュ・フロー	-16,793	-7,689	9,104
財務活動によるキャッシュ・フロー	-5,426	-12,351	-6,925
現金および現金同等物の期末残高	63,928	64,602	673

主な増減の内容

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益 : +2,314
減価償却費 : +1,404

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

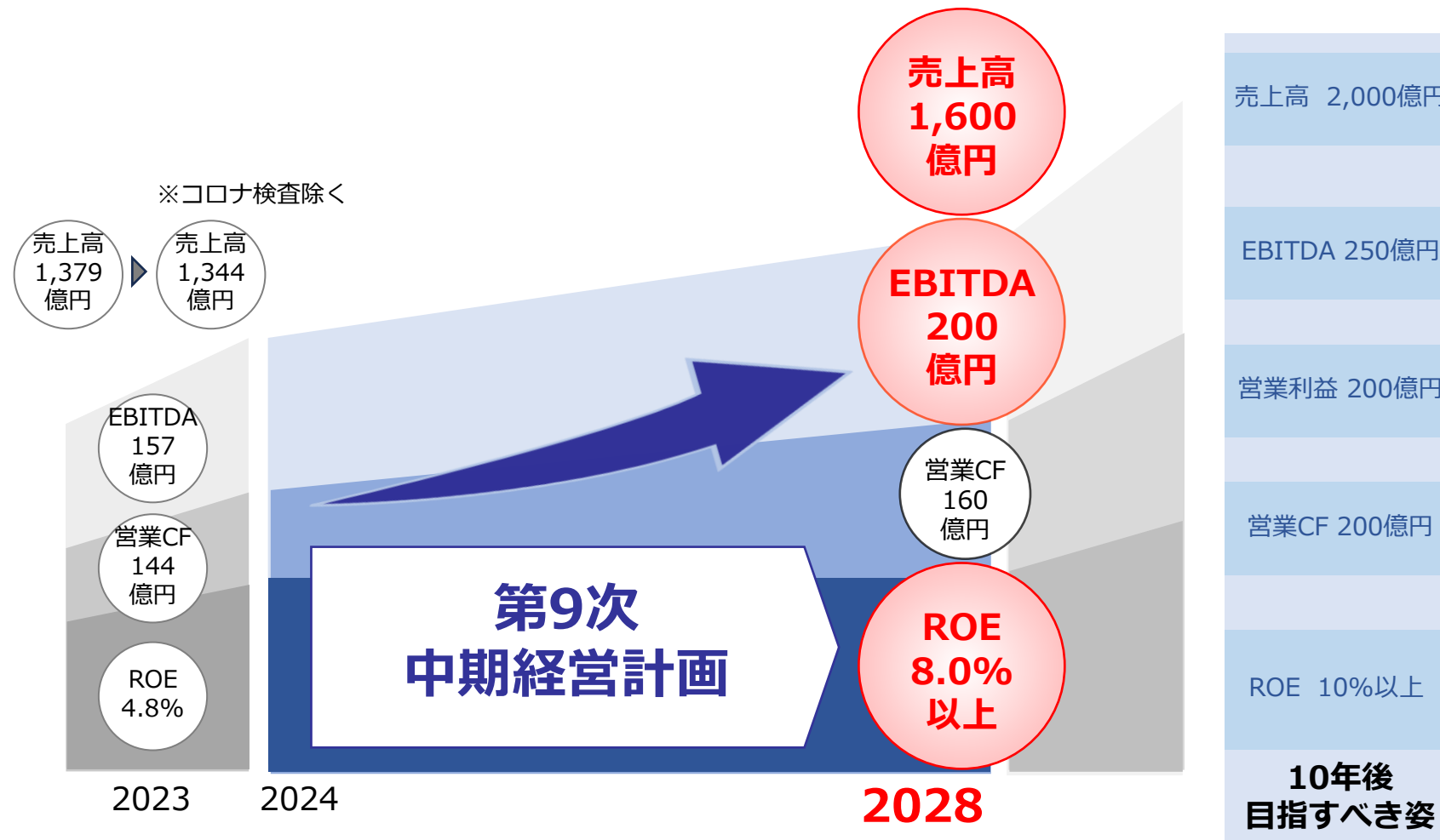
有形固定資産の取得による支出 : +6,395
有形固定資産の売却による収入 : +2,177

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

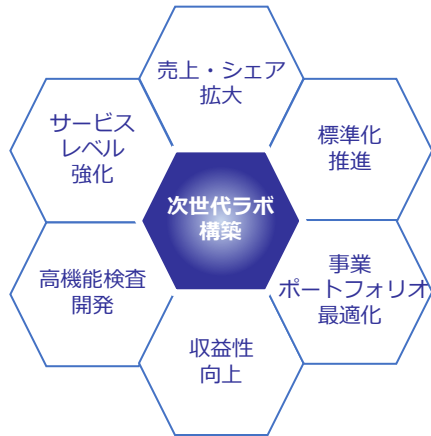
配当金の支払額 : -1,469
自己株式の取得による支出 : -5,382

第9次中期経営計画の進捗

- 安定した売上成長
- 新棟・DX・価格戦略効果による収益の飛躍的向上
- バランスのとれた成長投資と株主還元

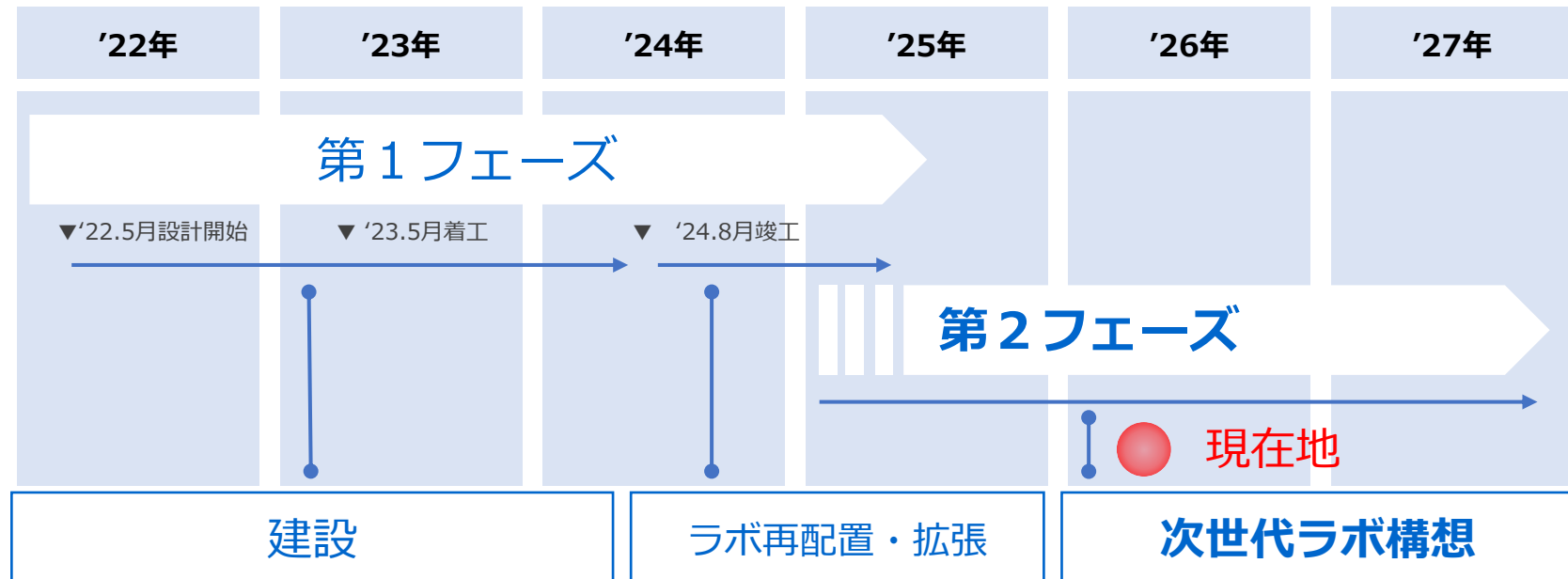


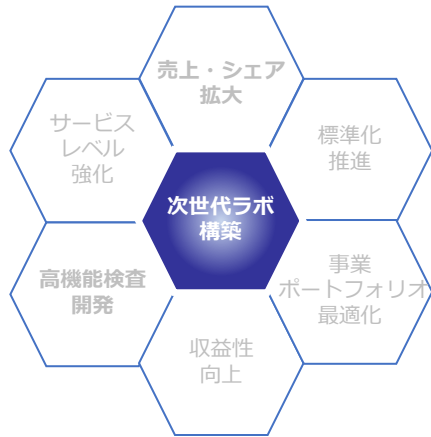




ロードマップ

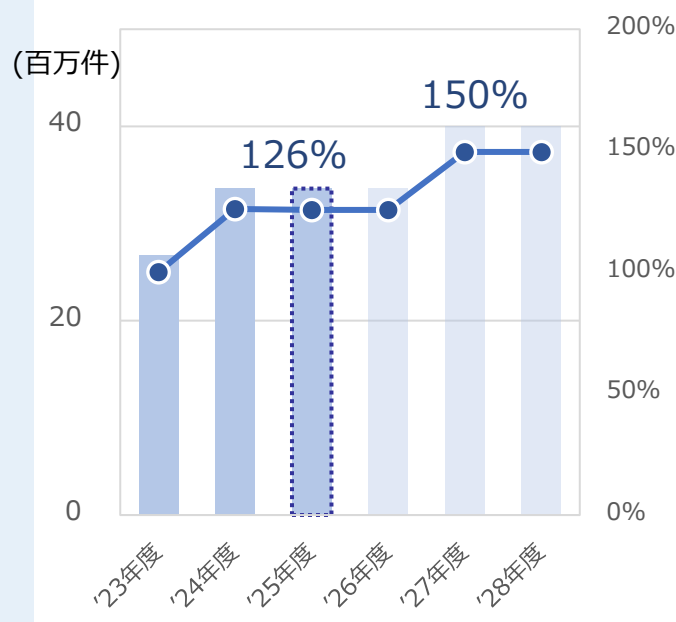
- 第1フェーズ：新棟建設によるBCP/環境対策と検査スペースの拡張
- 第2フェーズ：将来の業容拡大に合わせた検査処理能力・効率の向上



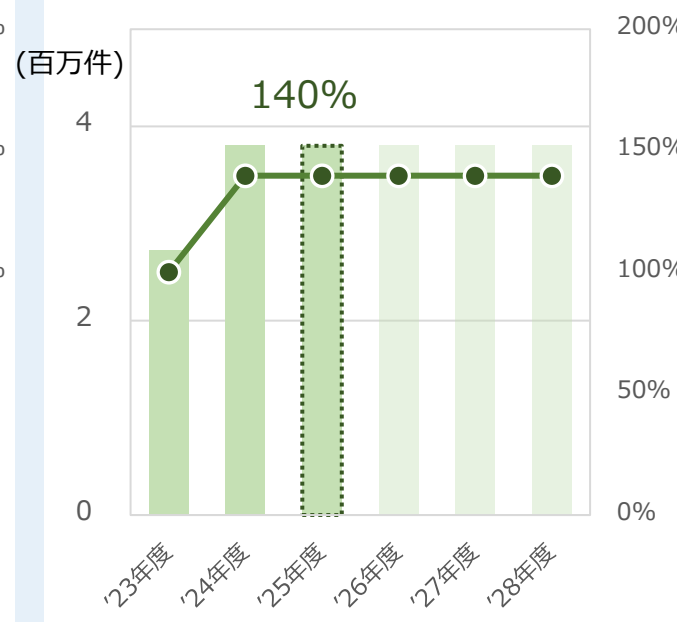


- 新棟竣工に伴う検査キャパシティの拡張
 - ✓ '23年度対比 **140~150%** の検査能力へ拡張
 - ✓ '25年度までは計画通り進捗

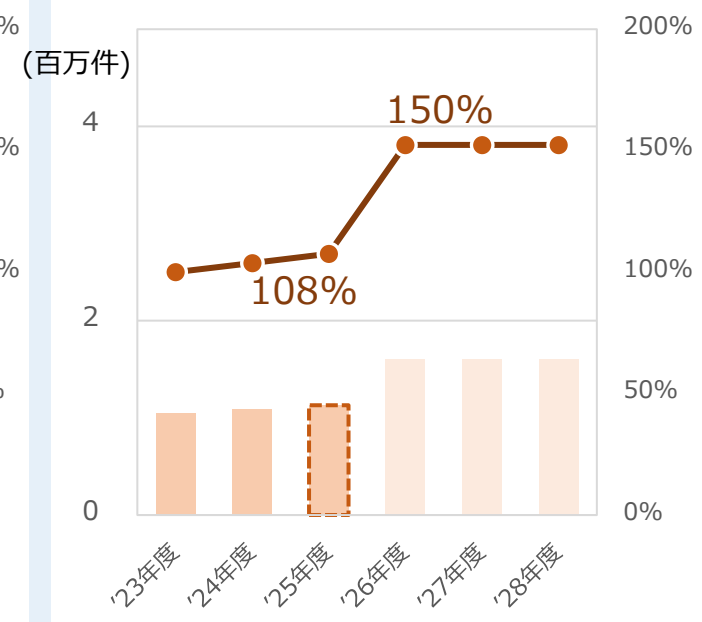
<ルーティン検査>

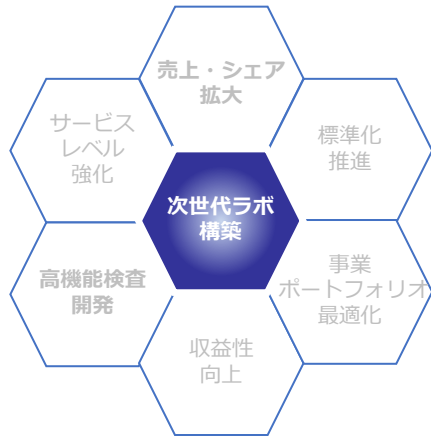


<微生物学的検査>



<ゲノム検査>



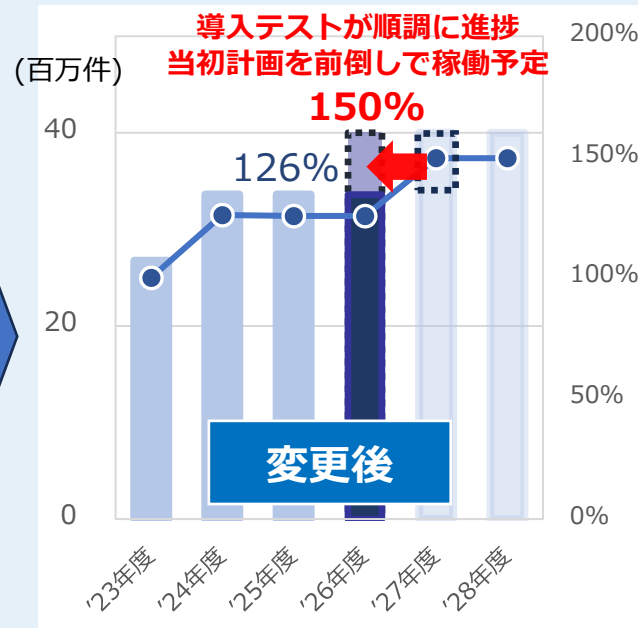
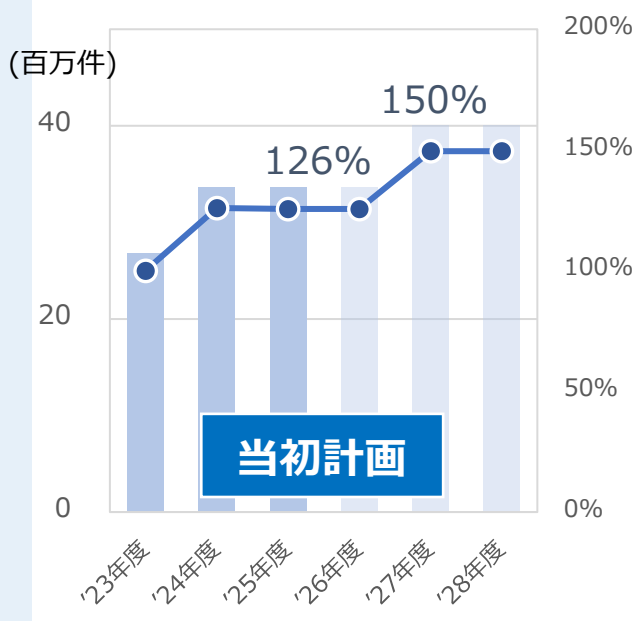


■ 検査キャパシティに関する26年度の見通しの修正

✓ フロントティア(前処理工程)・ケミストリー(生化学)分野が想定よりも早期に稼働

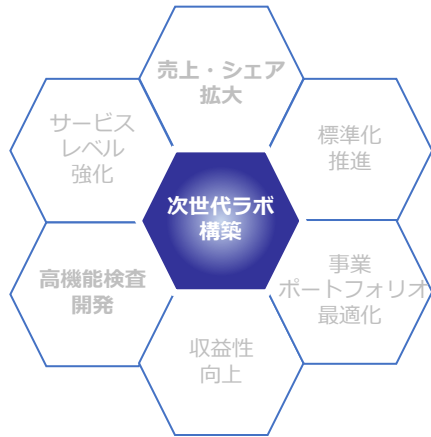
- ・ 当初計画：2027年1-3月稼働予定
→ 2026年4月以降段階的に稼働見込み

<ルーティン検査>



実現効果

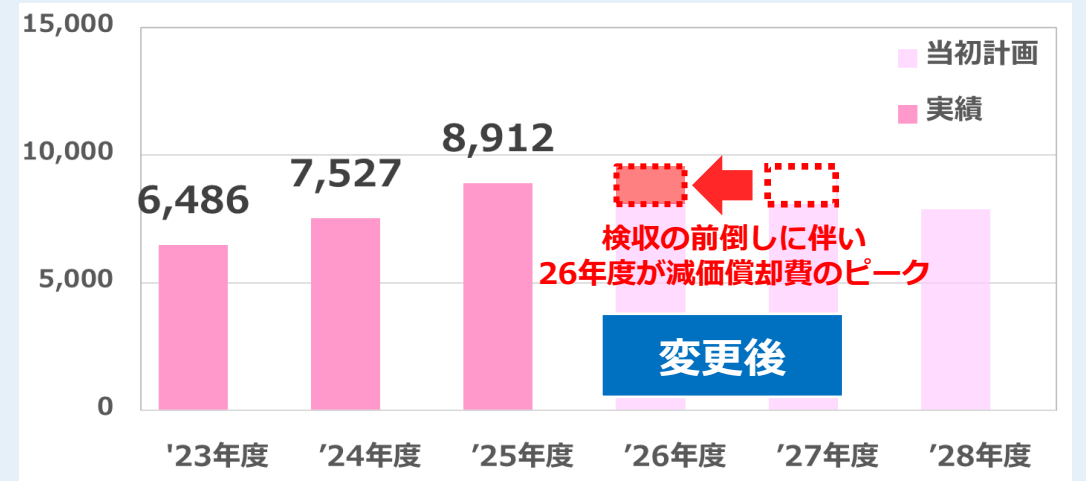
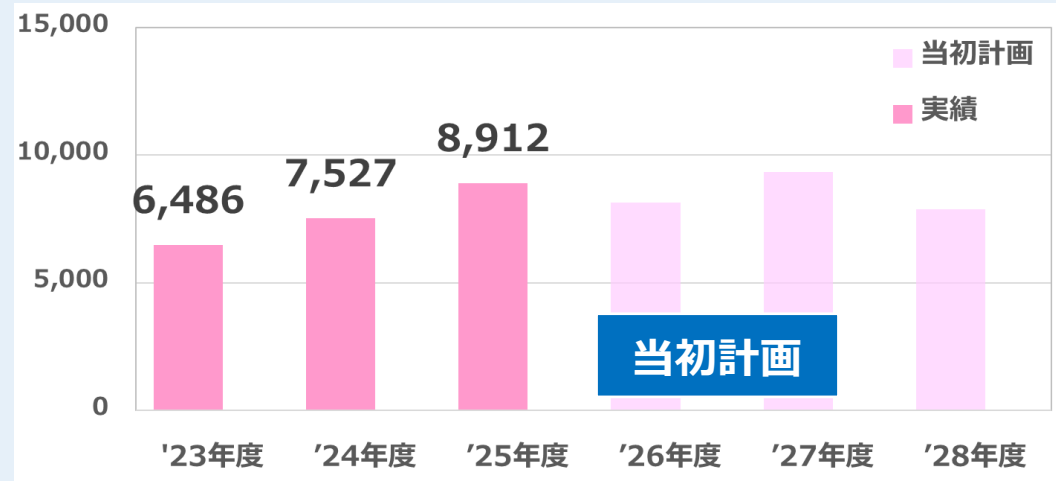
- ✓ キャパシティの拡大
 - ・ シェア30%超へ向けた検査体制
 - ・ 大規模施設や他検査センターからの受託も可能
- ✓ コスト削減
 - ・ 業務効率化
 - ・ 省人化
- ✓ 品質向上
 - ・ ヒューマンエラーの排除
 - ・ トレーサビリティの向上

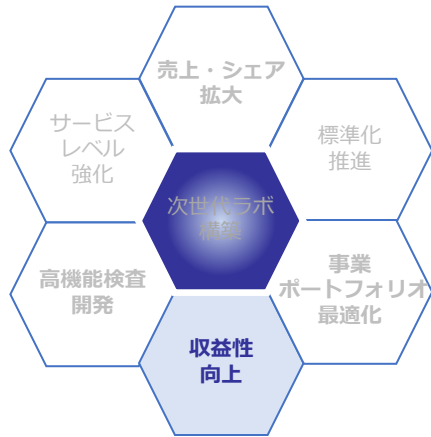


- 設備稼働の早期化に伴い減価償却費の計上時期が前倒し
- ✓ 当初計画：減価償却費のピークは2027年度
→ **ピークは2026年度へ**

<減価償却費>

(百万円)





■ 新棟建設によるコスト削減

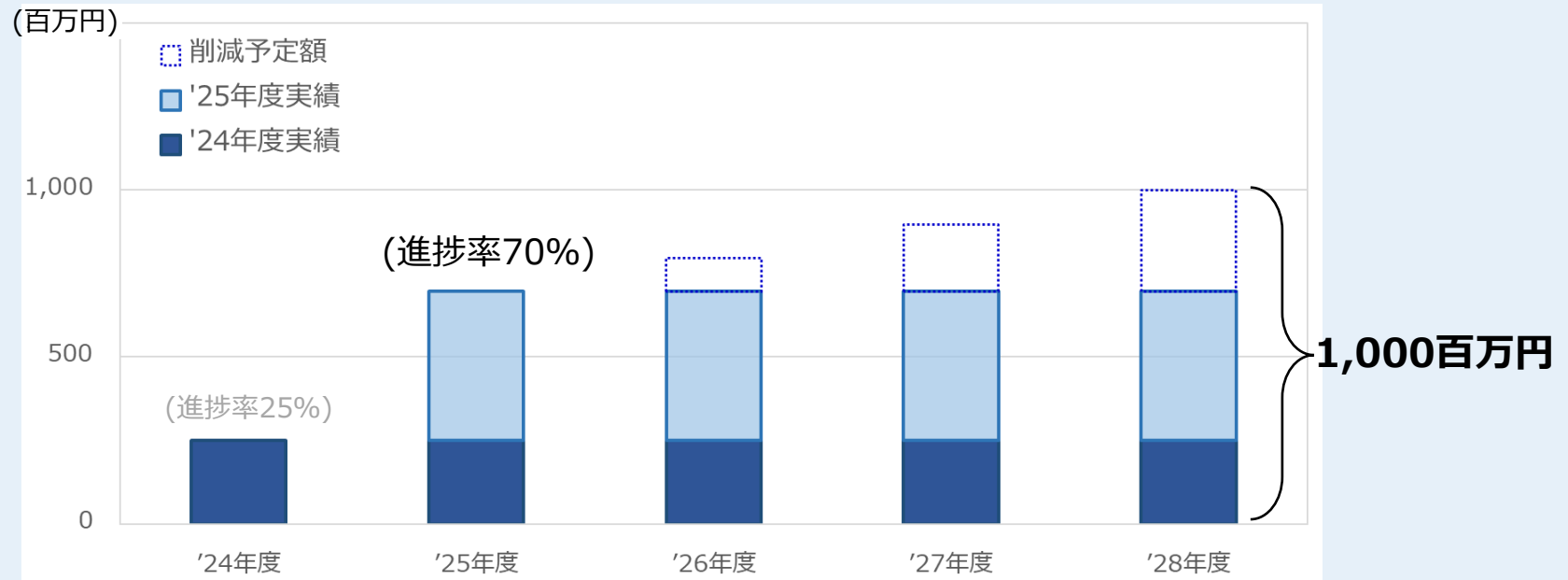
✓ 受付～報告工程： **1,000百万円** の削減に向け順調に進捗

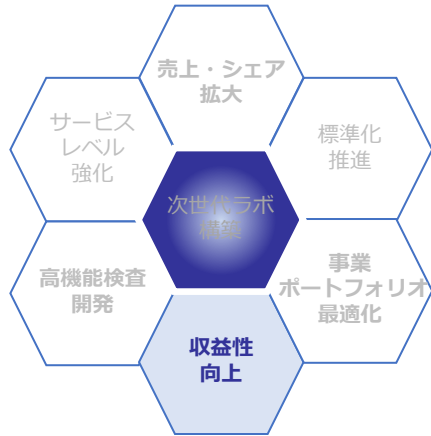
主な施策

「最新鋭機器導入」・「IT化」・「省人化」

→ '25年度 進捗率70% (およそ700百万円)

<コスト削減計画>





■ 臨床検査事業の採算性を抜本的に改善

✓ 収益性向上：**4,000百万円**の収益改善に向け順調に進捗

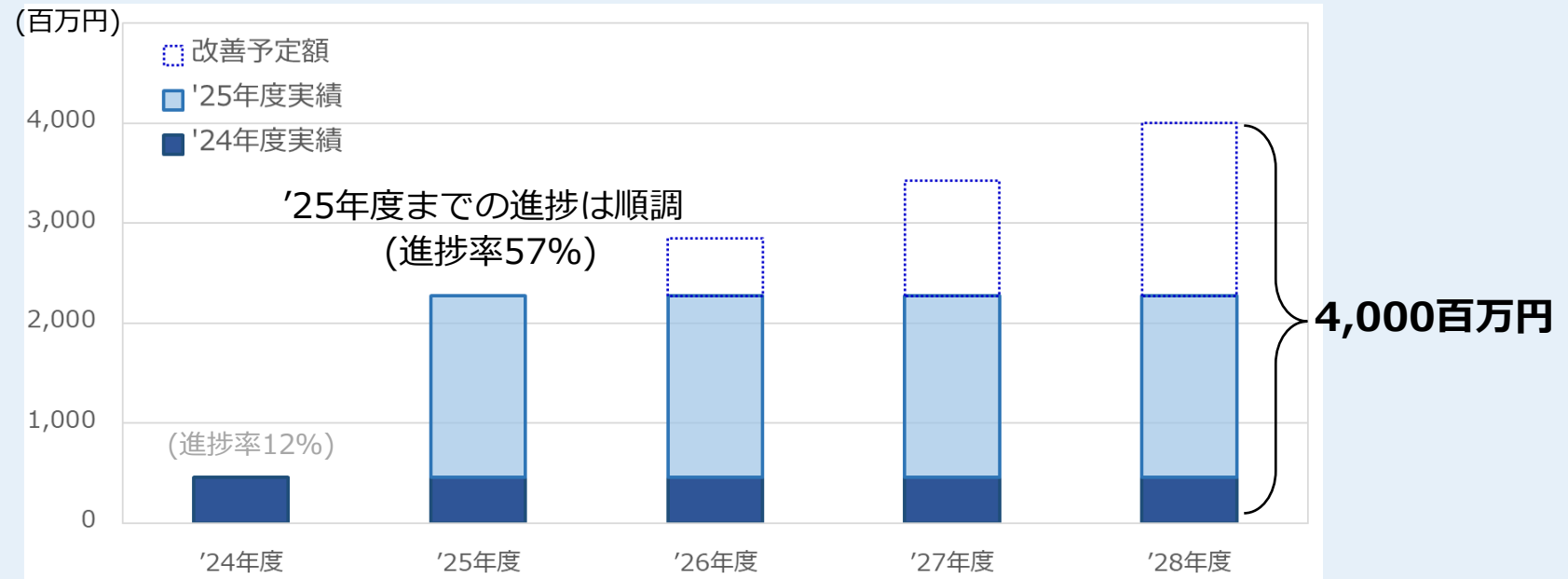
主な施策

「不採算項目および不採算取引先の価格適正化」

「集配体制の見直し」・「ラボ採算改善」

→ '25年度 進捗率57% (およそ2,300百万円)

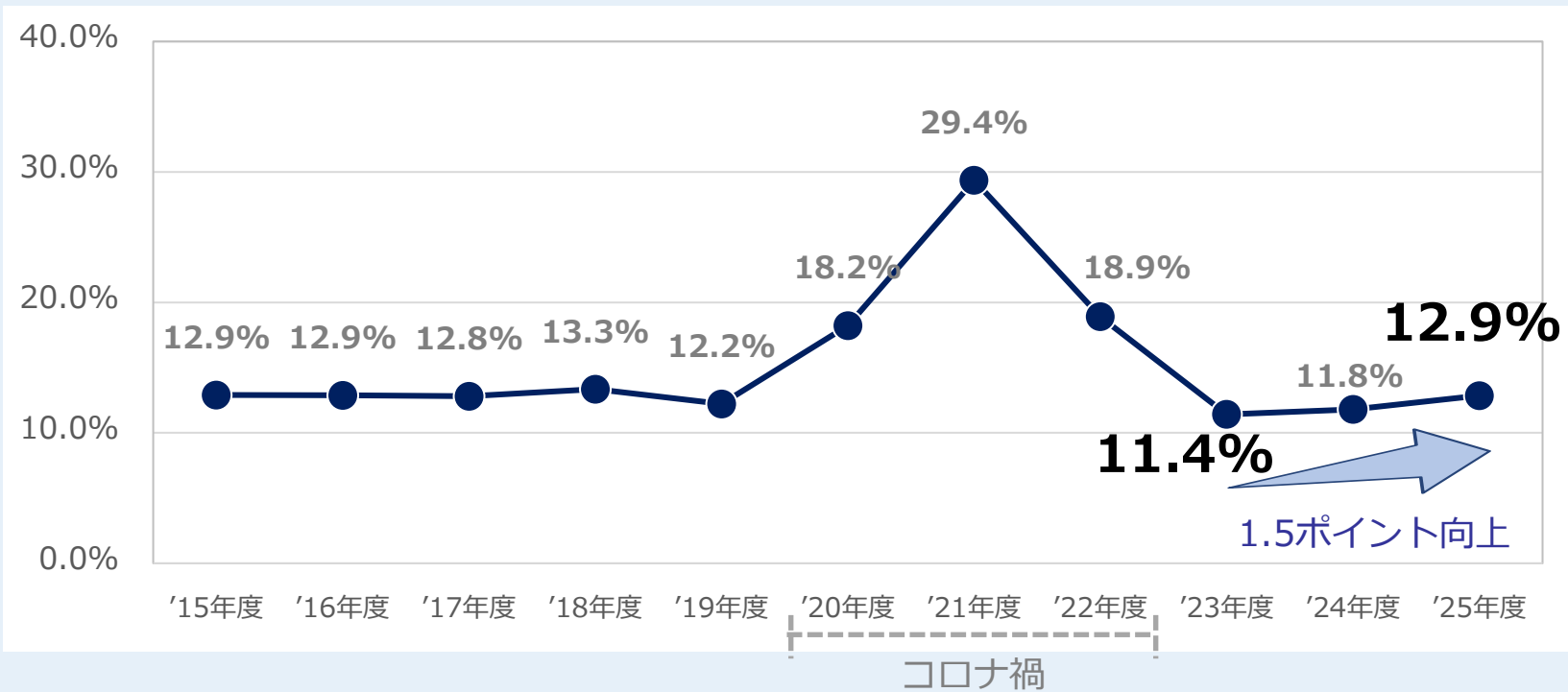
<収益改善額>



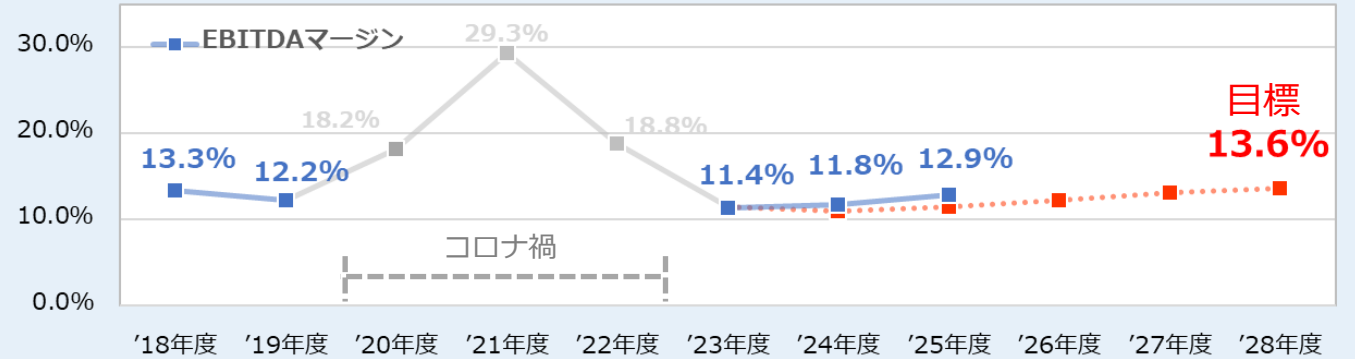
■ 収益性向上計画

- ✓ EBITDAマージンは'23年度をボトムに向上
- ✓ コロナ禍前の水準まで回復をめざす

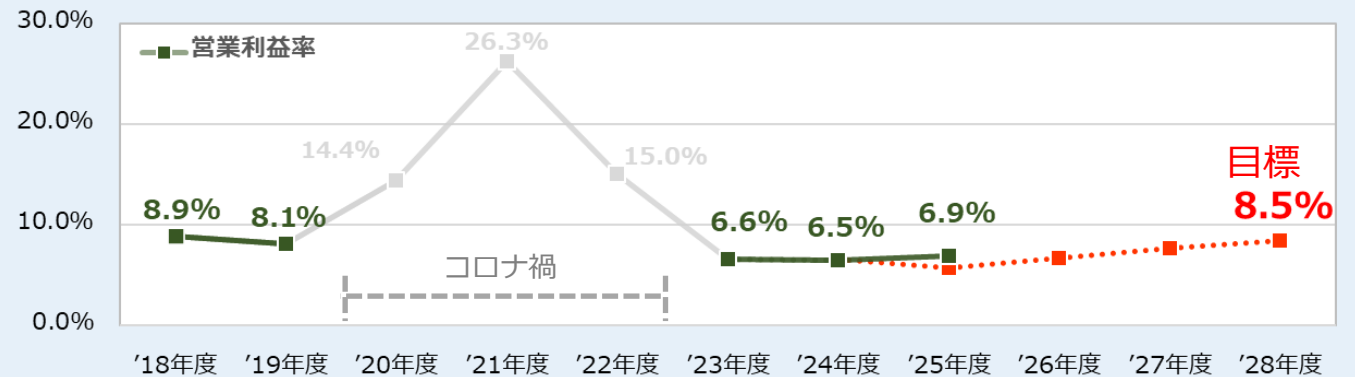
<EBITDAマージンの推移>



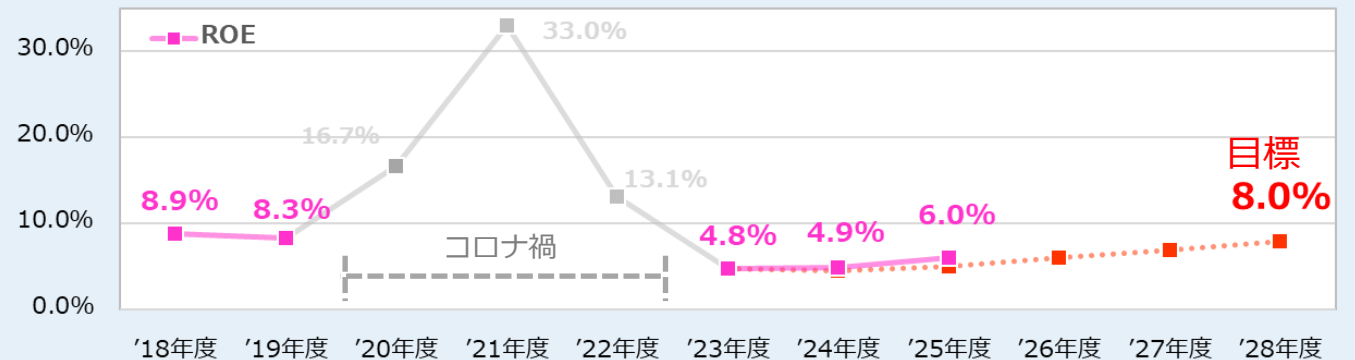
<EBITDAマージンの推移>

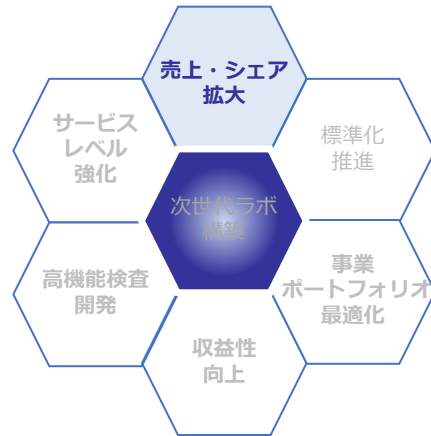


<営業利益率の推移>



<ROEの推移>





■ 食品衛生事業の移転拡張

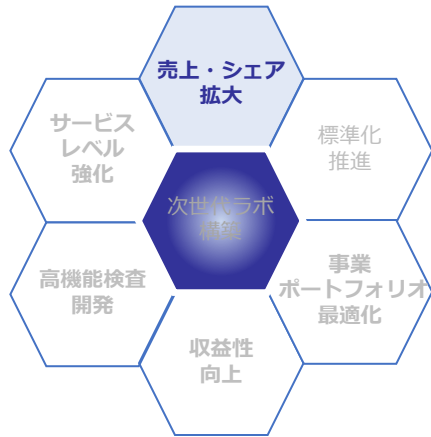
- ✓ 北海道地区の検査能力を130%に拡張
- ✓ リテールからホールセールまで適切なサービス提供が可能

<食品衛生検査>



(札幌市北区新川)

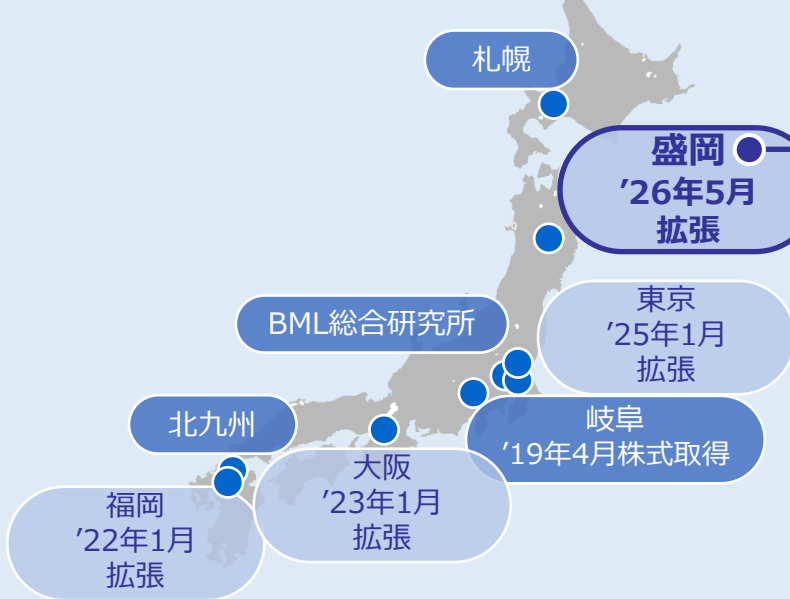
投資金額	506百万円
延床面積	734.4m ²
検査能力	130%



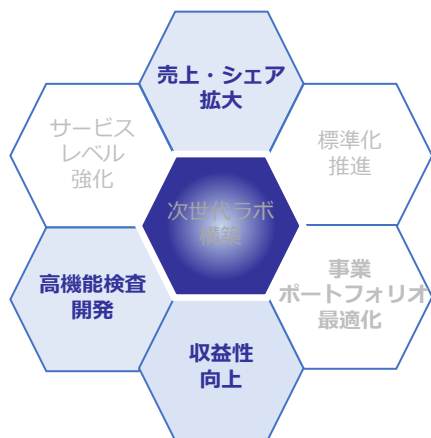
■ 病理学的検査の移転拡張

- ✓ 東北地区の検査能力を拡張
- ✓ シェア拡大に向け各地への投資を順次実施
→ 検査能力を拡張前比 福岡120%・大阪260%・東京200%に
続き、**盛岡180%**へ増強

<病理学的検査の拠点>



投資金額	358百万円
延床面積	500.0㎡
検査能力	180%



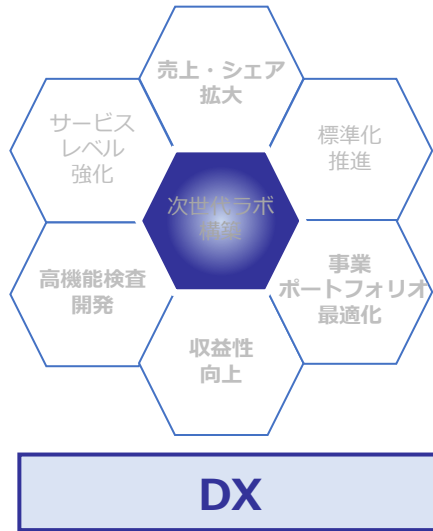
■ 高度専門人財の戦略的確保

- ✓ 専門性の高度化
→ 社内に不足する専門知識・スキルを補完
- ✓ 多様な専門人財の参画
→ 新たな視点を取り入れ、組織風土改革を推進

<高度専門人財>

DX推進・システム	4名
学術営業	4名
治験営業	2名
ゲノム医療	2名

製薬メーカー、金融機関、電機メーカー、IT業界、CRO(治験開発業務運営機関)など、幅広い業界から専門人財を採用



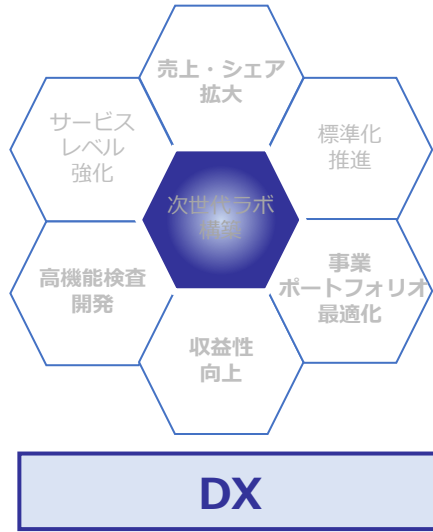
■ B-Label*による集配関連業務の削減

- ✓ B-Label*の活用拡大により、集配関連業務を効率化
 - 推進活動開始前の'21年度比で**7.4倍**に増加
 - 受付部門人員数の**10%削減**を実現

* 患者属性・検査依頼情報が紐づけられたバーコード付き検体ラベル

<B-Label検体数の推移>



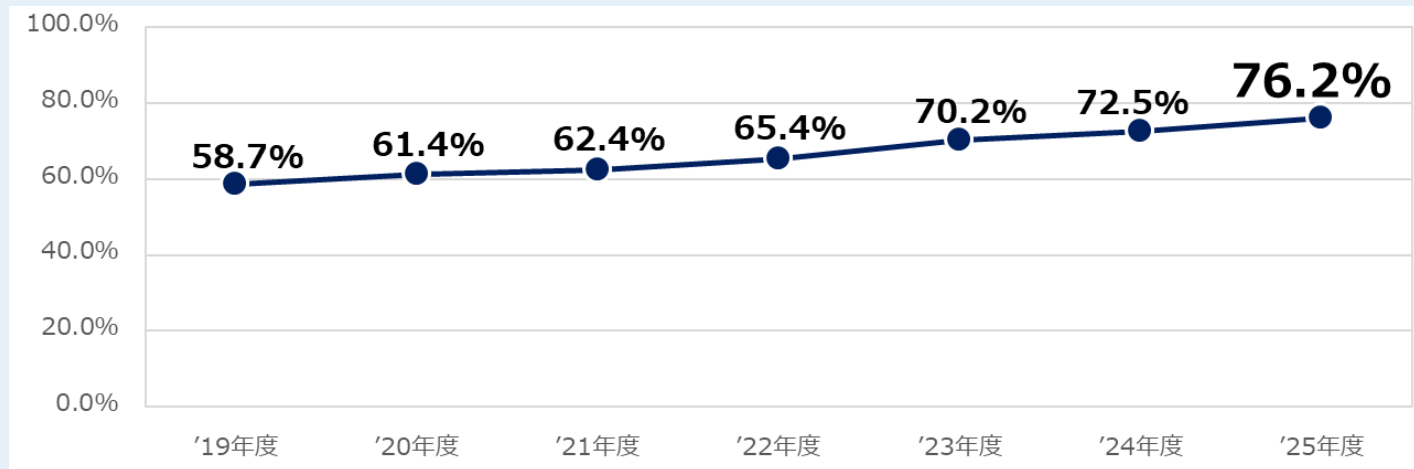


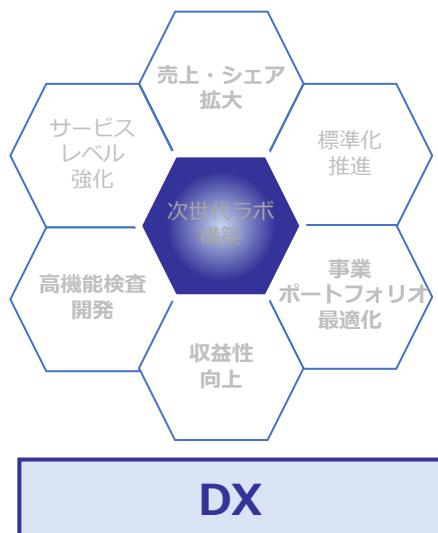
■ 検査依頼のオンライン化推進*

- ✓ 顧客：依頼作業と個人情報流出リスクを軽減
- ✓ 当社：受付業務の負荷を軽減
- ✓ 目標受託率 80%以上に対し、現在は**76.2%**

* 依頼書・USBメモリなどの媒体による検査依頼をオンラインに転換すること

<検査依頼のオンライン受託率推移>





■ DX投資

✓ 10年戦略の投資総額は**10,000百万円**を見込む

→ IT基盤投資 6,000百万円

→ DX推進投資 4,000百万円

✓ 2026~28年度を集中投資期間と位置付け

→ 3年で5,300百万円を投資し、IT基盤整備・DXサービスの構築と顧客展開

フェーズ1(着手)
2024~2025年度
1,200百万円

- ・ IT基盤整備に着手
- ・ DXサービスに着手

フェーズ2(集中投資)
2026~2028年度
5,300百万円

- ・ IT基盤整備
- ・ DXサービスの構築と顧客展開

フェーズ3(展開・定着)
2029~2033年度
3,500百万円


- ・ IT基盤整備完了
- ・ DXサービスの定着
- ・ DXサービスによる競争優位の確立

ファルコホールディングスとの 資本業務提携の進捗

業務提携進捗状況

< ファルコホールディングス → BML >

特殊検査項目の受託

当初予定していた約400項目の移管 

ノンコアエリアの相互連携

検査の受託開始


A地域	一般検査		B地域	病理検査	
C地域	一般検査		D地域	一般検査	
E地域	一般検査				
	細菌検査				
	病理検査				

< BML → ファルコホールディングス >

ICT商品の販売

ICT商品(レセスタ)を累計200施設以上に仲介 

遺伝子検査相互連携

NIPTの委託拡大 

計画実施済  継続 

2026年度通期の業績見通し

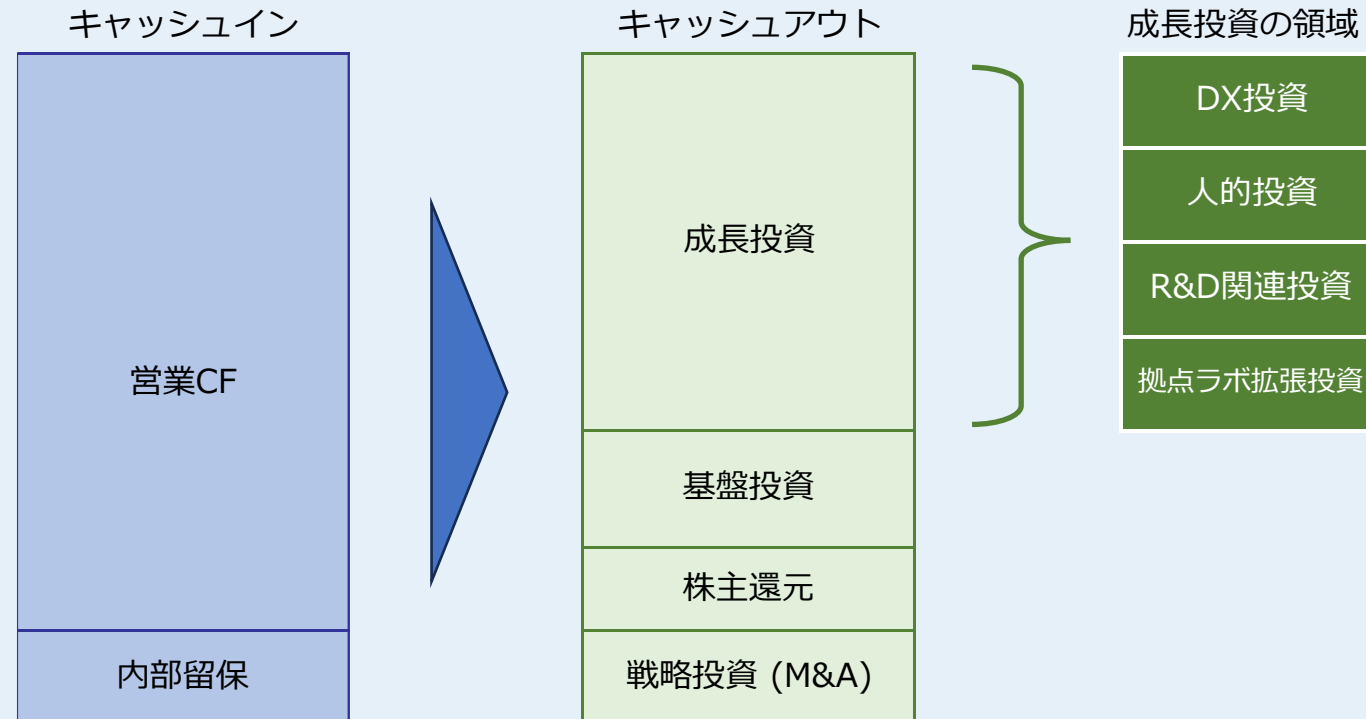
- 新棟関連の減価償却費がピークを迎える年度
- 中東情勢を背景とした価格上昇の影響によるコスト増を見込む

	'25年度	'26年度 計画	(百万円)	
			増減額	増減率
売上高	150,262	155,000	4,738	3.2%
検査事業	143,191	147,850	4,659	3.3%
臨床検査	137,661	142,100	4,439	3.2%
食品衛生	5,530	5,750	220	4.0%
医療情報システム	5,524	5,650	126	2.3%
その他事業	1,546	1,500	-46	-3.0%
営業利益	10,421	10,500	79	0.8%
経常利益	11,014	11,000	-14	-0.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	7,748	7,000	-748	-9.7%
EBITDA	19,334	19,500	166	0.9%

キャッシュアロケーション 株主還元

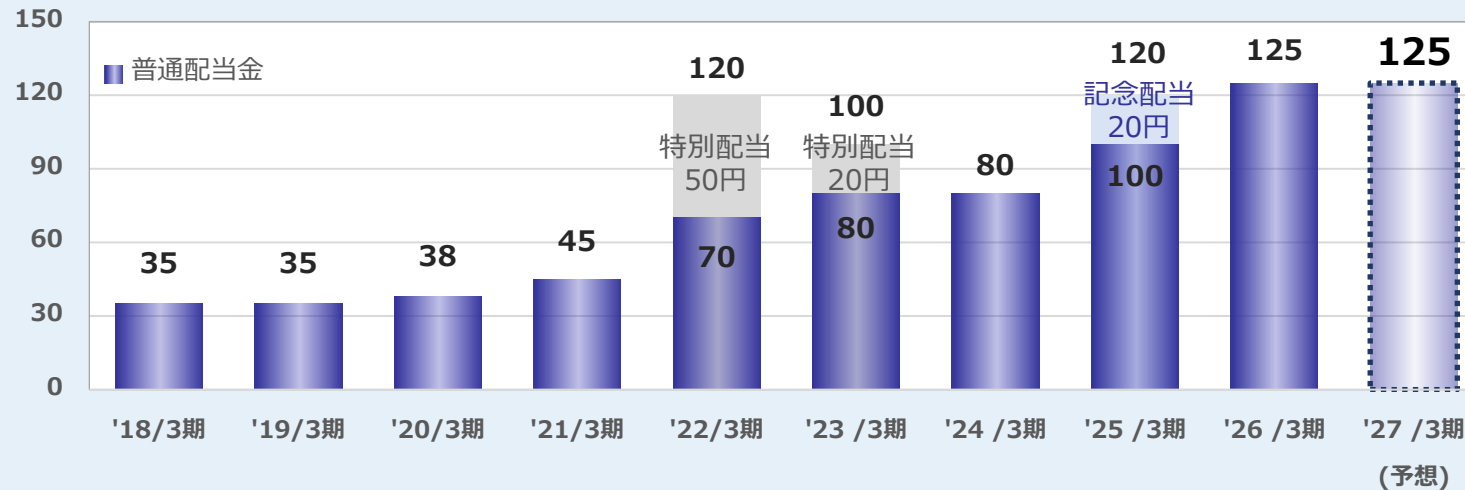
- 第9次中期経営計画では営業CFに加えて内部留保も活用し、成長投資・基盤投資、株主還元をさらに強化
- とくに成長投資ではDX・人的・R&D関連および拠点ラボ拡張領域へ優先的に資本を配分

<第9次中期経営計画>



- 第9次中期経営計画の還元方針
 - ・ 配当性向60%以上、かつ1株あたり**120円以上**
- '26年3月期の配当金は普通株式1株あたり年間**125円**(期末配当5円増配)を予想
(配当性向予想 '26年3月期60.5%)
- 自己株式の取得5,300百万円 ('25年8月12日実施済)
(総還元性向予想 '26年3月期129.9%)
- '27年3月期の配当金は125円を予想

(円) <配当金の推移>



Appendix

社会

■ プラチナくるみん認定取得



→ ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの浸透に向けた取組みとして、「男性社員の育児休業取得促進」や「育児休業取得者の職場復帰支援」、「復帰後のキャリア形成と子育ての両立」に積極的に取り組んでいます



■ えるぼし認定取得



→ 企業の持続的な成長に向けた重要な戦略の一つとして女性活躍推進を位置づけ、管理職候補者の育成や、全社員の意識変革に向けた「ダイバーシティ研修」の実施、「BML Women's Workshop」の活動等を通じて、女性活躍推進の取組みを進めています

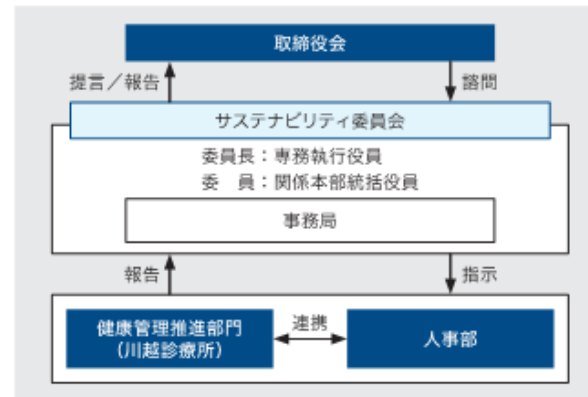
健康経営

■ BML健康宣言

【豊かな健康文化を創造します。】

ビー・エム・エルグループは、この企業理念を実現するために、職員一人ひとりが健康第一の風土醸成を通じて、健康経営を推進し、豊かな健康文化の創造に貢献することを宣言します

■ 健康経営推進体制



■ 『健康経営優良法人 ～ホワイト500～』 に4年連続で認定されました



健康経営

- 産業医監修の下、各種KPI(指標)とその目標値を設定し、達成に向けて取り組んでいます

評価指標	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2026目標	
定期健康診断受診率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
適正体重の割合 (BMI 18.5~25未満)	男性	61.2%	64.7%	63.1%	61.4%	63.0%
	女性	64.9%	69.2%	65.1%	65.9%	67.0%
非喫煙率	78.1%	78.8%	79.6%	80.0%	82.0%	
運動習慣のある従業員	15.4%	16.2%	14.7%	18.1%	19.0%	
ストレスチェック受検率	71.7%	86.6%	87.4%	92.3%	95.0%	
月間所定外労働時間 (管理職含む)	21.0時間	16.8時間	16.2時間	16.6時間	14.3時間	
年次有給休暇取得日数	10.9日	12.1日	12.3日	12.4日	12.5日	
健康増進研修参加率	98.2%	99.5%	98.9%	100.0%	100.0%	
メンタルヘルス研修	97.0%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	
プレゼンティーズム ^{※1}	—	80.8%	80.2%	79.0%	83.0%	
アブセンティーズム ^{※2}	—	2.4日	2.6日	2.9日	2.3日	
ワークエンゲージメント ^{※3} (ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度)	—	3.02	3.01	2.86	3.20	

※1 プレゼンティーズム : 出勤しているものの、健康上の問題によって完全な業務パフォーマンスを出せない状況

※2 アブセンティーズム : 傷病による欠勤 ※3 ワークエンゲイジメント : 仕事に対する活力・熱意・没頭



*Expanding
with
Passion
2028*

< 将来に関する記述等についてのご注意 >

本資料に記載されている将来に関する見通し、戦略、計画に関する記述等は、当社が現在入手している情報に基づく本資料作成時点での種々の前提に基づいた当社の判断であります。従ってこれらの記述・前提は、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。今後、様々な要因によって記載の見通しと異なる結果を生じえるリスクを含んでいます。また、今後予告なしに変更されることがあることをご了承下さい。